

米雇用は広範に回復、平均賃金は上昇

ポイント① 雇用は回復

11月5日に発表された10月の米雇用統計では、非農業部門就業者数が前月比で53.1万人増加、失業率は4.6%と、市場の予想を上回りました。また、9月の非農業部門就業者数も19.4万人から31.2万人に上方修正されました。一方、労働参加率は前月から変わらず、コロナ禍での狭いレンジに留まっています。時間あたりの平均賃金が前月比で0.4%上昇、前年同月比では4.9%上昇していることから、米国の労働市場では依然として人手が不足しているようです。

ポイント② 強い需要で人手不足

人手不足は続いています。10月は広範な業種で雇用が回復しました。娯楽・ホスピタリティー業界の雇用は、16.4万人増加、10月の米ISM（サプライマネジメント協会）非製造業景況感指数も過去最高となり、新型コロナウイルス感染拡大の抑制等から、非製造業の需要が高まっています。製造業では自動車メーカーを中心に6万人の増加となりました。供給制約や原材料価格上昇は課題として残りますが、労働力は徐々に回復しているようです。

ポイント③ 米10年債利回りは低下

雇用統計は良好な結果でしたが、米10年債利回りは低下しました。先日行なわれたFOMC（米連邦公開市場委員会）で利上げは急がない姿勢が示されており、市場では今回の雇用統計が、金融政策の方向性に影響する可能性は低いと考えられているようです。一方、株式市場ではダウ工業株30種平均が最高値を更新しました。今後の米雇用情勢の動向は金融政策の意思決定にも影響を及ぼす可能性があるため、引き続き注目です。

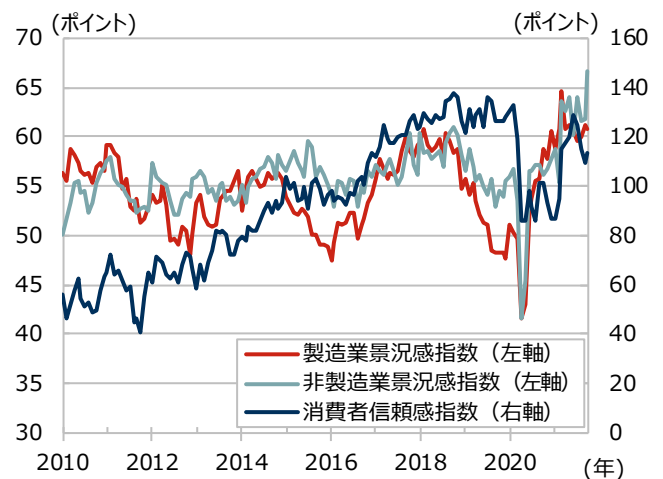
米国の失業率と非農業部門就業者数

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
10月	6.9	61.6	14,255	68.0
11月	6.7	61.5	14,281	26.4
12月	6.7	61.5	14,250	-30.6
2021年				
1月	6.3	61.4	14,274	23.3
2月	6.2	61.4	14,327	53.6
3月	6.0	61.5	14,406	78.5
4月	6.1	61.7	14,433	26.9
5月	5.8	61.6	14,494	61.4
6月	5.9	61.6	14,590	96.2
7月	5.4	61.7	14,699	109.1
8月	5.2	61.7	14,748	48.3
9月	4.8	61.6	14,779	31.2
10月	4.6	61.6	14,832	53.1

(注) 労働参加率 = 労働人口 / 生産年齢人口

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と
コンファレンスボード消費者信頼感指数



期間：2010年1月～2021年10月、月次

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

11月10日 米消費者物価指数 (10月)

11月12日 米ミシガン大学消費者マインド指数 (11月)